

発言通告表（一般質問）

令和2年2月定例会

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	遠藤 盛正（14）	<p>1. 富士市のエンディングノートに対する取組について</p> <p>高齢化の進行に伴い、社会保障費が膨張していき、今後、財政を圧迫することについては、以前より何度となく警鐘を鳴らせていただけてきました。厚生労働省が昨年11月に発表した「介護給付費等実態統計」によると、介護保険給付や自己負担を含む介護費用が2018年度に初めて10兆円を超え、ヘルパーの自宅訪問や通所でのリハビリといった介護サービスを利用した人も前年度比1.6%増の517万9200人で過去最高でした。これから毎年過去最高が更新されると推測され、国では、高齢化の進行で社会保障費が膨張している実態が浮き彫りになったことにより早急に対策が検討されています。</p> <p>団塊の世代全員が2025年には75歳以上の後期高齢者になるため、増大し続ける費用をどう抑制するかが課題と言われてから、数年が経過していますが、市として、実感できる対策がいまだ見えてこない中、国では、既に2040年を展望した社会保障・働き方改革に取り組んでいると聞いています。</p> <p>静岡県の現状は、昨年4月1日時点で高齢化の進行による特別養護老人ホームの待機者数は6086人で、市町別の待機者数は一番多いのが静岡市で925人、次いで浜松市の900人、そして富士市が482人で3位でした。</p> <p>県の介護保険課は、増加が見込まれる高齢者のニーズに対応するため、施設整備を引き続き進めるとしてはいますが、これは介護施設を増やすということで、今後も社会保障費が増大することを意味しています。しかし、介護の現場では介護士不足や職員給与の高騰などにより、施設運営が成り立たない施設も出てきています。受け入れ施設を増やしても全ての要介護者の受け入れはできないということになります。</p> <p>その現状に備えるためにも、在宅での介護、医療の充実を急いでほしいと以前、一般質問で要望させていただいています。ほとんどの方が、2025年問題については認識をされていると思いますが、現場から見るとその影響は、予想以上に早く確実に訪れると思っています。</p> <p>私が何度となく高齢者の問題を取り上げさせていただいているのは言うまでもなく、私たちの子供や孫に大きな負担を負わせないという気持ちからです。これまでも増加する高齢者に対する行政の受け入れ態勢について、当局の名称の変更や配置体制の見直しを御提案させていただいておりますが、高齢者にわかりやすくするだけではなく、介護する家族のためにも、わかりやすい行政サービスを一日でも早く確実に進めていただくことを改めて強く要望しておきます。</p> <p>そこで、今回問題として取り上げさせていただくのは、これから高齢者と呼ばれる方々の意識も今からしっかりと変え</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	遠藤 盛正（14）	<p>ていかなくはないということですが、</p> <p>現在、市としても介護予防施策に取り組んでいただいておりますが、将来を考えてどれだけの市民が予防に取り組んでいるのでしょうか。要介護者にならないためにどれだけの人が真剣に考えてくれているのでしょうか。老後は元気に社会貢献しようとか、80歳までしっかり働くぞという思いでいてくれるのでしょうか。そこで高齢者の就労支援も含め、その環境づくりも行政として急がれるところではあります。</p> <p>しかし、現実はいかにしてか、高齢者と呼ばれるようになってから病院通いが日課となり、それが当たり前だと思っている方がまだまだ多いのではないのでしょうか。中には、幾つもの病院を掛け持ちして、飲まない薬の量を自慢する方や、薬局などで直接買うと高いので、処方箋を出してもらおうと安いからと言って、自分の分だけならまだしも知り合いの分まで処方してもらおう方もいるようです。これでは、いくら税収が上がったとしても、後期高齢者医療費を湯水のように使えるという意識を変えなければ、無駄な社会保障ということになり、私たちの子供や孫たちに負の財産を残すことになり、医療費は本当に必要とされている方、社会的な保障を必要とされている方に使われるべきだと思います。</p> <p>現在、50歳代、60歳代の高齢者予備軍の方に少しでもいいから、自分の健康管理をすることや介護予防をすることが将来の社会保障費の削減につながるという環境づくり、意識改革を市民全員で共有できるようにしたいものです。</p> <p>そこで、今回その中のツールの一つとして「エンディングノート」を取り上げさせていただきました。このエンディングノートについて、私は平成29年6月定例会の一般質問でも取り上げさせていただきましたが、改めてその必要性について当局の御見解をお聞きしたいと思います。</p> <p>ここでエンディングノートがもたらすものとして、少し御紹介したいと思います。まず、その人らしく生き、大切な人へ思いを残すという大きな目的があります。意思を伝えられなくなったときや亡くなったときのために、これまでの自分を振り返り、この先の願いを書き示すのがエンディングノートで、人生の履歴書、最後の自分の企画書とも言われています。</p> <p>最近ではテレビなどでも人生の終わりのための活動「終活」という言葉も認知されるようになってきました。これからの福祉サービスを考える上で、自分を知っていただくこと、老後の人生計画を立てることは、大変重要になってくるのではないのでしょうか。</p> <p>そのために、エンディングノートを書くことで、自分の生活を見直す、無駄な医療費を見直す、大切に生きていこうと意識する、自分のことは自分で決める、書き終えれば安心する、大切な人に希望を伝えるなどの効果があると考えられ、</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
1	遠藤 盛正（14）	<p>自己管理ができることで、無駄な病院通いも少なくなるので、医療費、介護サービス給付費の抑制につながるのではないのでしょうか。</p> <p>記入する際、大切なことは、自分一人で書くのではなく家族の誰かが必ずそばにいて、自分の人生を共有してもらいながら書くことに大きな意味があると思います。</p> <p>そこで、改めて富士市として、このエンディングノートについて、どのような認識でいるのか、以下お聞きいたします。</p> <p>10年後の富士市の福祉政策を考える視点として、</p> <p>(1) 高齢者医療費、介護サービス給付費の推移をどのように見ているか。</p> <p>(2) 富士市として、エンディングノートの作成は考えているか。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
2	望月 徹（3）	<p>1. 葬儀後の諸手続を専用窓口化することについて</p> <p>御家族が亡くなられたときの悲しみは、今、私が申し上げるまでもありません。そして、悲しみの中、すぐに葬儀の手続、葬儀終了後はさらに煩雑な手続を必要とします。</p> <p>一人が亡くなることは、それだけ重大なことでもあります。</p> <p>主な諸手続を以下に記載しますが、年齢、保険加入状況等各人により違い、全てを必要とするわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葬儀前（主に業者、地区住民、知人が手続をすることが多い。） <ul style="list-style-type: none"> <li>① 死亡届（市民課：2階）</li> <li>② 斎場の火葬予約（市民課：2階）</li> </ul> </li> <li>・葬儀後（主に御遺族が手続をすることが多い。） <ul style="list-style-type: none"> <li>③ 後期高齢者医療関係（国保年金課：3階）</li> <li>④ 国民健康保険関係（国保年金課：3階）</li> <li>⑤ 介護保険関係（介護保険課：4階）</li> <li>⑥ 国民年金関係（国保年金課：3階）</li> <li>⑦ 障害者支援関係（障害福祉課：4階）</li> <li>⑧ 子育て支援関係（こども家庭課：4階）</li> <li>⑨ 市民税関係（市民税課：3階）</li> <li>⑩ 上下水道関係 （お客様センター：県富士総合庁舎1階）</li> <li>⑪ その他（バイク所有、市営住宅にお住まい等）</li> </ul> </li> </ul> <p>本市には総合窓口システムがあり、③、④の申請書類については、事前作成をして担当部署で保管、準備をしてあることと、「死亡に関する市役所での手続き案内」を事前に御遺族宛にお渡ししています。</p> <p>しかし、それ以外にも⑤から⑪の手続があり、⑪のその他は多種多様です。この手続は御遺族が行うことが多く、気落ちした状態の中で訪庁し、煩雑な手続に向かうこととなります。</p> <p>以下、意見を提示し、回答をお伺いします。</p> <p>この手続の専用窓口を設け、書式を含め簡潔、簡略、改善することで、一括処理できる手続と手続案内をすることで「煩雑さ」のイメージを払拭させることができ、葬儀後の心の安寧と住民サービスに新たな価値が付加されたいと考えますがいかがでしょうか。御所見をお聞かせください。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
3	佐野 智昭（6）	<p>1. 市が関与するイベント等を戦略的に、そしてより効果的に実施するための方策について</p> <p>経済産業省のイベント研究会では、イベントの定義を「イベントはなんらかの目的を達成するために、手段として行われる行・催事である」としている。</p> <p>本市でも、各分野において、それぞれの目的達成のために、多数の市主催、市支援のイベント等が行われている。</p> <p>しかし、イベント等の中には、マンネリ化し慣例的になってしまっているようなもの、目的達成のための手段としての効果が疑問視されるようなもの、目的自体が曖昧になってしまっているようなものなどがあるように感じる。</p> <p>また、毎年行うイベント等のうちの多くが固定化されており、予算も多少の見直しはあるものの、ほぼ同額で実施されてきている。</p> <p>一方で、市や地域の活性化、イメージアップ、地域ブランディングの確立、話題の発信、観光客の誘致、シティセールスなどの視点から、新たなイベント等の創出のポテンシャルも高いように感じる。</p> <p>そこで、せっかく実施している各種イベント等を、毎年無難にこなしていくといった消極的な考えではなく、戦略性を持って、目的達成のための手段としてより効果的に実施していこうという積極的な姿勢で取り組んでいくことが必要ではないかと考え、以下を質問する。</p> <p>(1) 各イベント等については、実施効果を評価・審査し、内容や予算の見直しを行うというPDCAサイクルが重要ではないかと考え、以下を取り上げ実際の取組について伺う。</p> <p>① 市共催の全日本大学女子選抜駅伝競走（通称：富士山女子駅伝）については、実施効果をどのように評価、分析しているか、また令和2年度に向けて改善すべきことはあるか。</p> <p>② 平成30年度補助金等審査会の評価対象となった富士市産業まつり商工フェア、吉原宿一の市事業については、評価結果を受けてどのように対応したか。</p> <p>(2) 本市の特性や地域性を生かして、新たなイベント等を創出していくことも必要ではないかと考え、以下を伺う。</p> <p>① 富士山を背景とするロケーションなどを生かし、市外からの誘客を目的とした新たな観光イベントやスポーツイベントなどを積極的に誘致・企画していくことは重要であると考えますが、どのような取組や活動を行っているか。</p> <p>② 市支援の新規イベント等については、財政的な面でどう決定されていくのか。</p> <p>(3) 市外からの誘客を目的としたイベント等の開催会場としてもふさわしい施設を、対外的にPRし、各種イベント等を誘致していくことも有効ではないかと考え、以下を伺う。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
3	佐野 智昭（6）	<p>① ふじさんめっせ、中央公園、富士川緑地、富士山登山ルート3776などを、市外から多くの人が集まるようなイベント等の開催の場として貸し出し管理はできないか。</p> <p>② 田子の浦港については、目指す将来像に向け、多様なイベント等を開催し、魅力を発信していくため、港湾管理者の県等と協力し、港の空いているスペースをイベント用に貸し出し管理はできないか。</p> <p>③ ふじさんめっせについては、立地条件等も優れていることから、新たな多様なイベント等の開催や既存のイベント等の効果的な実施に結びつくよう、施設の改善・向上が必要であると考えがいかがか。</p> <p>(4) 市が関与するイベント等について、全体をマネジメントし、戦略を立てて実施していくことが必要ではないかと考え、以下を伺う。</p> <p>① 既存のイベント等を精査した上で、市が関与するイベント等について、あるべき姿、目的・方針、実施方法、支援の在り方、新規導入の考え方などについての指針等を示し、戦略的に取り組んでいく必要があると考えるがいかがか。</p> <p>② 戦略的に取り組んでいくことを、富士市観光基本計画や第六次富士市総合計画に位置づけ、展開できないか。</p>	市長 及び 担当部長